

ダンブ 仲間

No.226 2014・8・26
全労連・全日本建設交連一般労働組合
石川県本部北陸ダンブ支部
石川県金沢市木越町4-77-2
☎(076) 257-4885

大会に参加してこそ勉強になった
岐阜分会組合員が加入している「中部ダンブ
建設労災保険協会」(新設)の事務局員をして
小川美和子さんも感動!

労災保険加入や組合員拡大

北陸ダンブ第21回定期大会

辻委員長「会員300名を目標」

全日本建設交連一般労働組合(建交労)北陸ダンブ支部(辻猛執行委員長)の第21回定期大会が3日、テルメ金沢で代議員や来賓ら約50名が出席して開かれ、ダンブ建設労災保険の加入・普及や組合オンラインプラットフォーム装着運動、組合員300名

の拡大運動といった今年度の運動方針を決めたほか、新役員の選出、大会スローガンを採択した。第1部ではまず辻執行委員長が「軽油の値上がりに単価が追いついていないため、我々の生活が安定しない。平均年齢も60歳前後であり、労働条

件の改善が大きな課題になっている」とあいさつ。来賓として石川県労働組合総連合の長曾輝夫事務局長、日本共産党県委員

の佐藤正幸県議、建交労支部の藤田弘書記次長が祝辞を述べ、建交労全国ダンブ部の森谷稔部長、石川県建設業協会

の北川義信会長、福井県建設業協会の松田七男会長、岐阜県建設業協会の小川弘会長らのメッセージが紹介された。第2部では辻執行委員長が「北陸ダンブのこれ

までと未来」と題して特別講演を行い、1985(昭和60)年に北陸ダンブ支部が結成された経緯について一画期的なことだった。1人ではなく9人が団結し、組合で対応することで公共事業の仕事が取れるようになった」と振り返った。オンラインプラットフォームの装着や労災保険の加入には「自分だけでなく、家族のためでもある。保険にきちんと入っている北陸ダンブという社会的な信頼が大」と強調し、「交通安全講習会や東日本大震災の復興ボランティア活動で社会的な認知度がより高

今年度支部役員は次のとおり(敬称略)。▽執行委員長 辻猛(嶺北分会)▽副執行委員長 山田信二(岐阜分会委員長、高岡敏彦(金沢分

建交労北陸ダンブ支部 定期大会盛大に開催(8月3日)

大会は53名が出席し、大きな展望と前進をめざす活気のある大会となりました。

とりわけ第2部の、辻委員長の記念講演は、北陸ダンブの30年間の歴史をふりかえり、今日私たちの運動が国交省や県土本部・セネコに影響を与え『就労闘争』が大きく躍進していることを確かめることができた内容となりました。

第3部で運動方針の説明(左記新聞内容参照)をおこない、満場一致で承認、新役員を選出しました。大会最後は、新副委員長の高岡さん(金沢分会委員長)の閉会のあいさつ、執行委員の田中さん(岐阜分会書記長)の団結カンパードーソングで閉会となりました。



約50名が出席した第21回定期大会=3日、テルメ金沢



特別講演でさらなる団結を訴える辻執行委員長(今年度の運動方針を説明する立野書記長



8月5日付建設業界紙「建設工業新聞」に大きく広いスペースで記事と存りました。これまで毎年記事と存していましたが、このように大きくとりあげられたのは初めてです。北陸ダンブが業界に浸透してきた証明と存しています。